



日に日に気温も高くなり日差しも強く、暑い夏になりそうですね。外出する時には、服装を工夫（帽子をかぶったり日傘を利用するなど）し、こまめな水分補給を行うなどして熱中症にならないように気をつけましょう。

子育て支援部より

訪問活動が始まった当初、「私たちの時代の子育てと今とでは育児方法、考え方がずいぶん違ってきているのに、現状での知識が薄い私たちが何をお話したらよいものか・・・」とあまりにも真面目に考え過ぎ、訪問活動が多少億劫に感じることもありました。しかし今では『こんにちは赤ちゃん訪問』事業も徐々に浸透しつつあり、私たちもそれを主任児童委員の明確な取り組みとして、少し肩を張らずに考えられるようになっていきます。

お母さん達の警戒心も以前のようにではなく、気持ちよくアンケートに答えてくださり、また訪問する私たちも経験を積むにつれ、少々肝が据わってきた感があります。何より赤ちゃんを抱っこして、ずっしりと命を感じる事ができた時には、この上ない幸せな気持ちになります。役得ですね。

最後にはいつも「この子はいいんです、上の子が手を取って」と。そうそう、私たちにもそんなことにイライラする時期がありました。

地域の保育所や幼稚園の体験保育の予定をお知らせして・・・。

「もうちょっとですよ。赤ちゃんの首が座れば活動範囲も広がりますよ。ガンバレ新米ママ！！」と。でも私たちは何をしてあげられるのでしょうか。自問自答 結局やり方の違いはあっても、子育ての悩みはいつの時代も普遍だな、と気になりつつお別れしています。

遅いスタートですが、あらためて今の育児法等を学んでみようか、と思うこのごろです。みなさんのお知恵もぜひ拝借したく・・・

（ 大分市主任児童委員 ）



《子どもの熱中症について》

赤ちゃんや子どもは体温調節機能が十分に発達していないため、熱中症になりやすいのです。また晴天時は、地面に近いほど気温が高くなります。（地面から1.5mの高さで気温が32℃の場合、50cmの高さでは気温35℃を超えていました。）ベビーカーに乗っている赤ちゃんや身長の高い子どもは、大人より高温の環境にいることとなり、十分な注意が必要です。

★予防のポイント★

- ① 衣服は通気性・吸湿性のよいものを選びましょう。
- ② 水をこまめに飲ませましょう
- ③ 適度に外遊びをして、暑さに慣れさせましょう。
- ④ 顔が赤くないか、ひどく汗をかいてないか確認しましょう。
このようなときには、涼しい場所で休息しましょう。

